

**[様式2] 令和8年度 羽村市立武蔵野小学校 学校経営計画 (学校評価計画表) 学校教育目標** **◎よく考える子** **◎思いやりのある子** **◎健康な子**

【目指す学校像】 元気いっぱい 笑顔でつながる武蔵野小 三者(子供、保護者・地域、教職員)が笑顔で過ごせる地域の学校  
 【目指す児童・生徒像】 ○何事も自分ごととして捉え、自ら学びに向かい表現を楽しめる子 ○むさしのリーダーシップを身に付け、自他を尊重し、大切にできる子 ○基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身ともに活力に満ちた子  
 【目指す教師像】 ○児童の学びに火をつける教師 ○エンパシーを大切に、児童に寄り添える教師 ○組織の一員としての意識をもち、職層に応じた使命と役割を果たせる教師 ○服務規律を重んじ、児童・保護者の信頼に応える教師 ○ゆとりをもった精神状態で指導にあたる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題【成果】・コミュニティ・スクール委員会との連携による外部人材の活用 ・教員の負担軽減 ・在校時間の短縮 ・学習週間の向上 ・共通指導の徹底  
 (簡条書きで簡潔に) 【課題】・身に付けさせたい資質・能力を意識した授業実践 ・自己有用感を高める指導の充実 ・心身ともにゆとりをもって児童とじっくり対面するための働き方改革

3つの施策	中期経営目標 (施策の内容)	短期経営目標 (今年度の取組)	具体的方策	「取組・努力」の評価基準 (学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	評価方法	「成果」の評価基準 (児童・生徒の変容)	評定	評価方法
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①小中一貫教育の推進	・羽村三中校区小中一貫教育の強化連携の重点化と推進。 ・中一ギャップをなくすための取組の推進。 ・小中合同会議における連携の深化と地域を活用した取組の充実。 ・地域人材を活用した積極的な授業改善。	・9年間で身に付けさせたい力の明確化。 ・乗り入れ授業(数学、理科、英語)や授業観察の実施。 ・顔が見える関係で、小中学校がWIN-WINになるための前向きな思考での活発な意見交換の実施。 ・CS委員を活用した地域人材の発掘やおイベントの実施、地域住民が協力・参画しやすい体制づくり ・朝学習、放課後補習、夏季学習教室、家庭学習をリンクさせた、学習習慣の確立と自主学習の取組。 ・はむらの授業指針に基づき、資質・能力を明確にした指導と評価の一体化を図った授業改善。 ・自らの問いをもって学習に参加する姿勢を確立し、振り返りでは自分の考えを見える化させる。 ・図書室の有効活用や学級会の話し合い活動の充実を図り、言葉の力の育成を図る。 ・児童にやさしい教室環境、学習環境、人的環境の3つの視点をもったユニバーサルデザイン化を進める。	・9年間のゴールを見据え小学校と中学校の教育をつなぐ努力をしている。 ・乗り入れ授業を3教科(数・理・英)で実施している。 ・地域人材を活用した効果的な授業を実践している。 ・地域、保護者の方を活用することで学習が理解が深まった。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・ゴールに向かった自身の力が身に付いた児童 75% ・中学進学のイメージを具体的に描けた児童 80% ・地域の協力やかわりの中で、児童が豊かに学んでいる 80% ・保護者、地域が参画する授業が充実している 80%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	②確かな学力の定着	・家庭学習を中心とした学習習慣の定着。 ・何事も自分ごととして、自己の課題を設定し、主体的に学びに向かう学習習慣の育成。 ・学びを生かし、実際の社会や生活で生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の習得。 ・言葉の力を育成し、自分の考えを自分の言葉で伝え、仲間と協力して納得解を創る力の育成。 ・個に応じた指導の工夫に努め、適切な支援の充実。 ・めあてや流れを提示した、ユニバーサルデザインによるわかりやすい授業の構築。	・日常場面を啓発の場とし、5つの習慣を身に付けさせ、非認知能力の向上を図る。 ・計画的な朝学習と毎日の家庭学習を活用し、全校で「コグトレ」に取り組み、認知機能の向上を図る。 ・多様な人・もの・こととの出会いを通し、双方向性に関わり合わせることで納得解を導き出す協働的な学びの場の確保する。 ・児童の興味関心を刺激し、学びに対する意欲の向上を図る。 ・グッドモーニング60分をはじめ、健康教育、食育指導を推進し、生活習慣の改善、充実を図る。 ・放課後の過ごし方を自分で設計し、家庭学習(自主学習)の時間を確保できるようにさせる。 ・端末を効果的に活用した授業改善(プログラミング教育、情報モラル教育のす指針と責任ある選択行動に向けた指導) ・図書館を調べ学習の拠点とし、探究学習を推進するとともに読み聞かせ活動や読書貯金などの取組を行い、活字に触れ合う機会を創造する。	・相手意識をもった自律した行動が選択できる児童の育成を図る。 ・「コグトレ」を継続することで、意欲的に学習に参加する児童を育成する。 ・多様な他者とのつながり、協働的な学習環境を積極的に作っている。 ・授業だけではできない多様な学習の場を児童に提供した。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・授業と朝学習、各種補習一体化と家庭学習の定着度の向上 ・指導と評価の一体化がされた授業を行い、確かな学力の定着を図っている。 ・児童が意欲をもって参加し、楽しくわかりやすい授業の工夫をしている。 ・3つの視点に沿ったユニバーサル・デザインによる授業を行っている。	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	③特色ある教育の推進	・「むさしのリーダーシップ」を定着させ、自己決定力を育み、自己有用感が高まる指導。 ・認知機能の向上プログラムに全校で取り組み、学習の土台の構築。 ・「社会とつながるプロジェクト」を推進し、地域にある本物に出会う体験を生かした授業づくり。 ・人材バンクや放課後活動の「未来づくり広場」を活用し、多種多様な学びの充実を図る。 ・生活習慣を見直させ、一人に一つの命を自覚し、新しい生活様式に基づいた、すべての命を守る意識と行動力の育成。 ・放課後の過ごし方を自分で設計し、よりよい生活について考えながら、実践できる児童の育成。 ・端末を賢い学習ツールとして自分で選択しながら活用できる力の育成 ・学校図書館の機能の充実と読書活動の活性化	・心と体の関連性を理解し、様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力を育てる。 ・自分ごととして考える道徳の授業の推進。 ・特別な教科道徳の評価についての理解促進。 ・毎学期のふれあい月間を活用し、児童一人一人の人権感覚を磨く。	・人権感覚を磨き些細なことも見逃さないようにしている。 ・はむらの道徳科授業指針に沿って授業を行っている。 ・学校は自他を大切にすることの育成をしている。 ・校内研究を生かし、振り返りを活用し児童の成長を見取る。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・リーダーシップが身に付き、正しい行動選択できるようになった児童 80% ・コグトレをすることで、勉強がわかりやすくなった児童 70% ・他者とのつながり、自分の考えがより深まった 85% ・学びに対する意欲が向上したと肯定的に答える児童 80%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	④新しい課題に対応した教育の推進	・「むさしのリーダーシップ」を推進し、非認知能力の向上を図り、児童の自己有用感を醸成する。 ・全学年副担任制を活用し、効果的な体制を作る。 ・一人で悩みを抱えない相談体制の充実 ・自他を大切にし、共によりよく生きるために児童の内面に根ざした道徳性を育成する。	・障害者理解教育を推進し、障害の有無に関わらず公平性を確保しつつ社会の一員としての基礎を作る。 ・共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムを構築する。 ・子供の困り感に寄り添った校内委員会の充実	・生活習慣の改善・充実を図る活動を推進している。 ・情報活用能力の育成計画に沿って指導している。 ・図書館を活用した探究的学習を行っている。 ・児童が活字に触れる機会を意図的に創造している。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・グッドモーニング60分ができていない児童 80% ・情報モラルを守って、正しく端末を使用することができた 95% ・図書館を使って調べ学習など探究的な学習をしている 50% ・一人月平均3～5冊の本を読んでいる 70%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	⑤人権教育の推進と道徳教育の充実	・「むさしのリーダーシップ」を推進し、非認知能力の向上を図り、児童の自己有用感を醸成する。 ・全学年副担任制を活用し、効果的な体制を作る。 ・一人で悩みを抱えない相談体制の充実 ・自他を大切にし、共によりよく生きるために児童の内面に根ざした道徳性を育成する。	・心と体の関連性を理解し、様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力を育てる。 ・自分ごととして考える道徳の授業の推進。 ・特別な教科道徳の評価についての理解促進。 ・毎学期のふれあい月間を活用し、児童一人一人の人権感覚を磨く。	・人権感覚を磨き些細なことも見逃さないようにしている。 ・はむらの道徳科授業指針に沿って授業を行っている。 ・学校は自他を大切にすることの育成をしている。 ・校内研究を生かし、振り返りを活用し児童の成長を見取る。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・困ったことがあったときは、大人に相談することができる 100% ・正しい言葉遣いを意識して生活することができる 80% ・道徳の授業では、自分の考えをもつことができる 100% ・振り返りノートに自分ごと化できた記述をしている 95%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
多様なニーズに応じた教育の推進	⑥特別支援教育の推進	・障害者理解教育を推進し、障害の有無に関わらず公平性を確保しつつ社会の一員としての基礎を作る。 ・共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムを構築する。 ・子供の困り感に寄り添った校内委員会の充実	・むさしの学級児童が通常級の混じって活動(なかよし学級制)する機会を増やす。 ・むさしの学級担任による「障害理解教育」の推進を図る。 ・居住地交流や副籍交流を活用し、障害者理解を深める。 ・校内委員会を中心に学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、特別支援教育を組織的に推進する。	・なかよし学級の活動の幅を広げ、インクルーシブ教育を推進する。 ・障害者理解教育を全学級で取り組む。 ・個別指導計画に沿った支援を行っている。 ・校内委員会を中心に共通理解のもと全職員で支援する。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・学年や学級に関係なく、誰とでも仲良く過ごすことができる 80% ・なかよし学級制の活動は楽しい 100% ・郊外においても障害のある人に親切にできる 95% ・困っている友達がいたら進んで声をかけることができる 95%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	⑦児童・生徒が楽しく通える学校の実現	・「むさしのリーダーシップ」を推進し、非認知能力の向上を図り、児童の自己有用感を醸成する。 ・全学年副担任制を活用し、効果的な体制を作る。 ・一人で悩みを抱えない相談体制の充実 ・自他を大切にし、共によりよく生きるために児童の内面に根ざした道徳性を育成する。	・教師が率先してむさしのリーダーシップを実行しながら、学年に応じたむさしのリーダーシップの取り組みを推進する。 ・副担任制を活用し、全学年担任プラス1の相談体制を構築し、浸透させる。 ・SOSカードを活用し、相談できる大人4名を明確にさせる。 ・問題解決的、あるいは体験を通した発問構成を工夫した道徳授業の推進	・日常場面を活用し、むさしのリーダーシップを推進する。 ・児童の自己有用感が高まり、前向きに取り組む姿がある。 ・気になる様子の児童に対し、すぐに声をかけることができる。 ・児童が自分ごととして参加する道徳授業を実践する。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・自分が学級や学校のために役立っていると感じる 70% ・友達のことを大切にしている 90% ・困ったときに相談できる大人が校内に3人以上いる 60% ・道徳の授業では、自分の考えを持つことができる。 80%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	・傾聴を大切に、児童の気持ちに寄り添った指導の充実。 ・一人で抱えず、何事も組織で対応する垣根のない教育の推進。 ・心にゆとりをもって児童と接する。 ・児童や保護者に信頼される学校。	・児童の活躍やよさを共有し合える職員室の構築。 ・学年会を週2回確保し、いつでも誰にでも相談できる風通しの良い職員室。 ・インサイド・アウト、エンパシーを合言葉に、パラダイムシフトの視点をもって、互いに支え合える同僚性の構築。 ・定時退勤日の設定。 ・年間計画に沿った服務事故防止研修の充実	・児童のよさを発見したり、共有することができる。 ・いつもで気兼ねなく相談できる教職員が3人以上いる。 ・心にも時間にもゆとりをもって働くことができる。 ・体罰及び不適切な指導ゼロ	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・友達のよさやがんばりを見つづけることができる 90% ・学校にはいつでも相談できる大人がいる 100% ・教職員は笑顔で働いている。 90% ・体罰調査 0件	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	・授業力・学級経営力の育成。 ・OJT担当者を中心としたOJTの活性化。 ・共通指導、共通実践を多く取り入れることで安定した教科指導、学級経営につなげる。 ・校務分掌や学年団・ブロックを活用した人材育成。	・副校長を推進責任者とし、OJT担当者を中心により実践的なOJTを推進し、授業改善につなげる。 ・経験年数を問わず、自分の武器を広めるOJTの拡充 ・共通指導、共通実践を行うことで安定した指導につなげる。 ・学年、ブロック、分掌などの小グループを活用し、適時先を見越した人材育成を行う。	・OJTによって自己の成長が見られる。 ・OJTの指導者側となることで、さらに見識が深めることができる。 ・楽しく分かりやすい授業のために工夫する努力をしている。 ・小グループを活用することで、気兼ねなく相談できる。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・学級経営が安定していて、児童が落ち着いている。 90% ・学校は、児童に確かな学力を身に付けられるよう努力している。 80% ・学校は、意欲的に学習できるよう、授業を工夫している。 80% ・教職員がゆとりをもって働いているのが分かる 80%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	⑩保護者や地域住民の協力・参画	・笑顔でつながる武蔵野小のもと、本校の魅力を発信し、保護者・地域に学校の取組をわかりやすく伝えるとともに興味関心を引き出す。 ・コミュニティ・スクールを活用し、保護者や地域を積極的に巻き込んだ社会に開かれた教育課程を推進する。 ・保護者による学習支援の拡充。	・笑顔あふれる子供たちの様子から、保護者・地域の方に関心をもっていただいた地域人材を活用した授業の充実を図る。 ・学期に2回以上学校公開を行う。 ・HPを適時更新するとともに、ブログやまなびポケットも活用した情報発信を行う。 ・家庭科支援や校外学習などの補助を積極的に依頼する。	・地域人材を活用することでより充実した活動をしている。 ・学校の様子を積極的に伝え、教育活動の公開に努めている。 ・HPの適時更新し、活動をブログで発信している。 ・学習支援を積極的に保護者・地域に依頼している。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・保護者、地域の人と勉強するのが楽しい 95% ・保護者、地域と勉強することでよりよく分かった 95% ・学校の話を毎日家族と話す 80% ・家庭教育への支援を適切に行う努力をしている。 80%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価
	⑪学校の特色や独自性のある取組	・自分の考えを振り返りで言語化する児童の育成。 ・ノート記録の技能向上を図る。 ・言語能力とともに、未知の課題に向き合い、探求し、思索する力の育成。 ・正しい起床時間を確保することで、遅刻の減少、充実した1時間目のスタートを切る。	・自分の思いを言語化する活動を毎時間取り入れる。 ・ノートの軌跡をたどって、学びを振り返る習慣を付けさせる。 ・学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実させ、探求する喜びを感じさせる。 ・グッドモーニング60分の取組の推奨	・振り返りを言語化させることで書字への抵抗が減った。 ・自分の考えを発表する場面を意図的に増やす授業の実践 ・図書館を有効活用した言語活動を行っている ・グッドモーニング60分を機会あるごとに啓発している。	4 3 2 1	自己評価 保護者アンケート 児童アンケート 児童観察	・文字を書くことが楽しい 70% ・自分の思いを伝えることが楽しい 80% ・図書館では、読書以外の勉強をしている 70% ・登校60分前に起きることができた児童 80%	4 3 2 1	児童・保護者アンケート 児童観察や振り返りカード 教職員アンケート CS学校評価